

◆道徳科学習指導案 高学年

1. 主題名 人との接し方 C 公正、公平、社会正義

2. ねらい 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる

3. 教材名 「コロナで変化した親切」(『小さな親切』作文コンクール文部科学大臣賞受賞作より)

4. 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点（○）評価（☆）
導入	1. 新型コロナについて困っていることを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自由に行動出来なくなった。 ・遊びに行く場所が少なくなった。 	○特に制限なく発表させる。自分が思っている以上にさまざまな影響があることを感じさせる。
展開	2. 「コロナで変化した親切」を読んで話し合う。 <p>①赤ちゃんのお母さんが、「わたし」に対して驚いた顔をしたときの気持ちはどうだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんにコロナがうつされはしないか。 ・この子どもは非常識なのか。 <p>②その時の「わたし」の気持ちはどうだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しく感じた。 ・嫌な気持ちになった。 <p>③お互いの気持ちと、行動についてどう感じたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親は大人だから我慢すべき。 ・「わたし」の行動はコロナ禍では気遣いが足りなかった。 ・コロナが流行っている中では、このような態度も仕方がない。 <p>④コロナ禍で、このときの「わたし」のように、偏見や差別を受けている人たちには、どのような人がいるか、その人たちの気持ちを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者、医療関係者、配達の人。 ・つらい、悲しい。 	○プリントアウトしたお話を配布。教師が読み聞かせる。 ○母親の気持ちになって考えてみる。 ☆母親に自我関与し、自分なりに感じたことに基づいて話し合っているか。 ○母親は赤ちゃんを守りたいと思ったかもしれないが、この態度をとられた「わたし」はどんな気持ちだったか。 ○自分を守りたいという気持ちがあったとしても、悲しい思いをさせてしまうこともあるということに気付かせる。 ☆同じ出来事を多面的・多角的にとらえられているか。 ○不幸にも感染症にかかってしまった友人や、医療の現場で働いている人たちについてどう対応すればよいのか、考えさせる。
	3. 患者やエッセンシャルワーカーの人たちへの差別が続くことで、世の中がどうなるのか、自分もそんなことを思ったことがないか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい思いをする。 ・仕事を辞めてしまう。 ・つい、汚いとか付き合いたくないかと思ってしまうことがある。 	○差別すること、されることによって、心に、そして、社会にどういった影響があるのか想像させる。
終末	4. 教師の話を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・エッセンシャルワーカーへの差別。また、感染者への差別が結果としてどういう事態を招くのか話す。 「星はやさしく光っていた」を読んでまとめる。	○思いやりをもって差別や偏見をもたないようにすることの大切さについて感じ取らせる。